

## L R T 停留場の名称選定について

## 1 趣旨

L R T 事業の優先整備区間において、現在、仮称で設定している停留場の名称について、正式な名称を定める手法等について報告するもの

## 2 背景

L R T 事業については、市民と直接、意見交換を行う「双方向の取組」や様々な媒体を活用した「幅広い情報発信」に加え、富山市への L R T 体験見学会などの「参加・体験型の取組」により、市民の理解を深めてきたところである。

このような中、沿線の一部地域からは停留場の名称に関わる要望書が提出されるなど、事業の進捗に伴い、地域の期待感が高まってきている状況である。

今後、停留場については、停留場壁面の個性化を含め、その整備に取り組んでいくとともに、仮称である停留場の名称についても、その選定に市民参加を得ることも含め、具体的に検討を進めていくこととする。

※ L R T 停留場位置図は [参考資料 1](#) 参照

## 3 停留場名称選定の基本的な考え方

- ・ 停留場の名称については、市民や来訪者に対して、その地域や場所を分かりやすく示す明示性を確保しつつ、長期間継続的に使用していく永続性に考慮しながら、地域住民が親しみやすい名称としていく。
- ・ 名称の選定に当たっては、地域の公共施設として、公平性や中立性を確保していく。

## 4 名称選定の進め方

- ・ 停留場の名称は、施設整備事業者である本市・芳賀町が決定する。
- ・ 停留場の名称選定は、「(仮称) 芳賀・宇都宮 L R T 停留場名称検討委員会」を設置し、地域の特性等を踏まえながら検討を行うとともに、市民参加を得るなど、「マイレール意識」の醸成を図りながら取り組んでいく。

※ 駅名選定に係る他事例は、[参考資料 2](#) 参照

## (1) 「(仮称) 芳賀・宇都宮 L R T 停留場名称検討委員会」の設置

## ア 組織体制

「(仮称) 芳賀・宇都宮 L R T 停留場名称検討委員会」は、有識者や沿線の地域代表者、地元交通事業者などで組織する。

## イ 役割と検討事項

停留場の名称選定に係る取組等について検討を行い、停留場名称（案）を選定し、本市及び芳賀町に提案する。

### 〔主な検討事項〕

- ・ 停留場名称の選定基準
- ・ 選定の進め方
- ・ 市民参加の方法 など

※ 停留場整備に係る検討事項及び検討組織は参考資料3参照

### 【停留場名称等のイメージ】

- |                  |                         |
|------------------|-------------------------|
| ・ 所在地の名称         | 【例】 ○○町                 |
| ・ 周辺の公共施設の名称     | 【例】 ○○高等学校前             |
| ・ 周辺の歴史・文化的な施設名称 | 【例】 ○○城址公園前             |
| ・ ネーミングライツ       | 【例】 ○○町（○○本社前）<br>○○本社前 |

## 5 市民理解促進の取組との連携

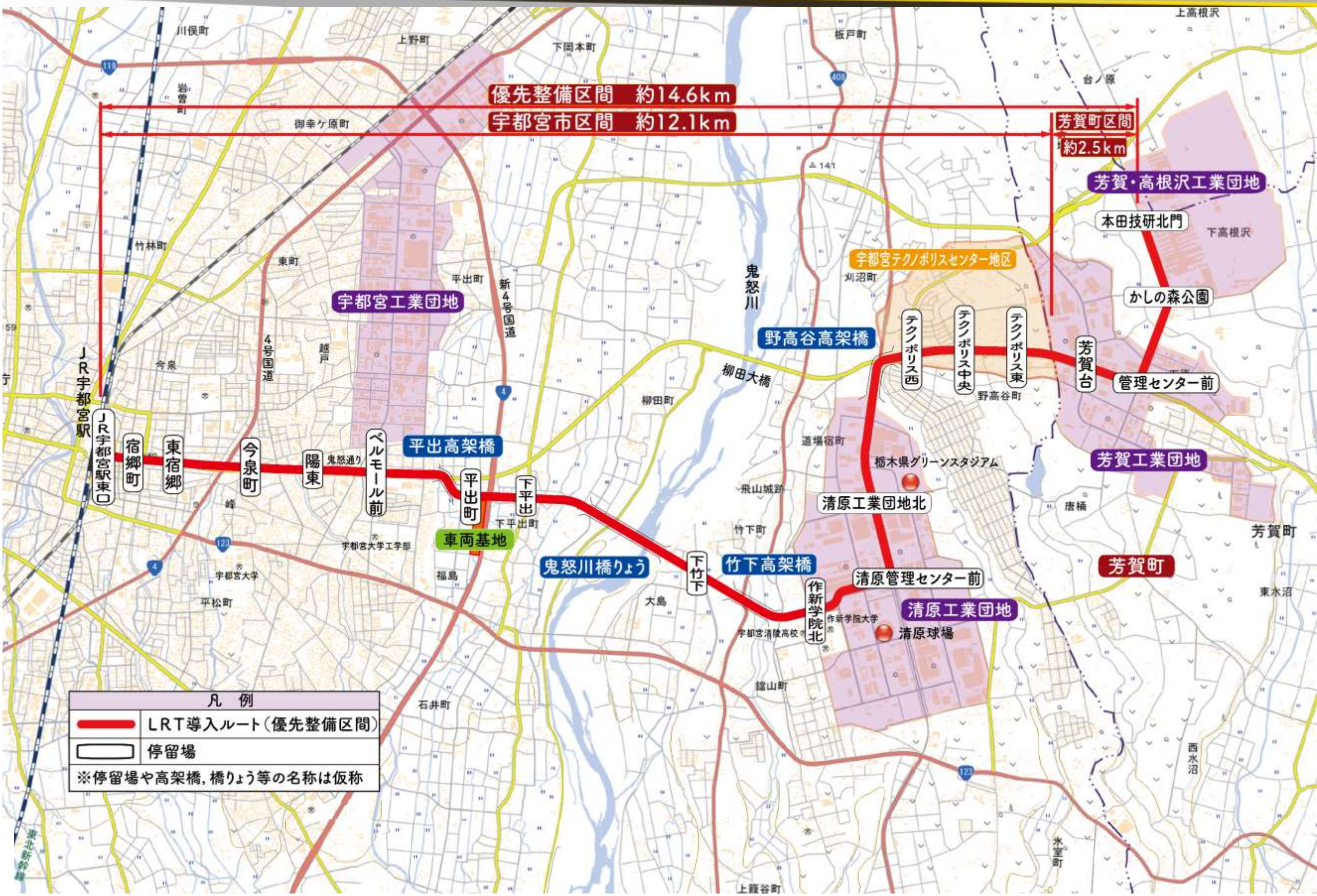
「マイレール意識」を醸成し、市民に愛されるLRTとするために、名称選定の過程で実施する市民参加の取組については、現在本市が行っている市民理解促進の「参加・体験型の取組」に位置付けるとともに、「双方向の取組」や「幅広い情報発信」と一体的に取り組んでいく。

### 〔主な参加・体験型の取組〕

- ・ 停留場壁面の個性化
- ・ 工事現場見学会
- ・ ドネーション（寄附）
- ・ 車両の愛称募集 など

## 6 今後のスケジュール

令和元年10月～	（仮称）芳賀・宇都宮LRT停留場名称検討委員会の設置
令和2年 8月～	停留場名称決定（本市・芳賀町）



○ 駅名選定に係る他事例

路線名	決定方法	選定基準
富山都心線 (軌道事業)  開業 平成21年12月	学識経験者や地元自治会長等で組織した「電停名称選定委員会」において討議し、富山市が決定	① 電停の所在地 ② 電停付近の公共施設、著名な施設、建築物名に「前」をつけたもの ※ 富山市が作成した停留場名(案)をベースに選定委員会において検討し、富山市が決定
仙台市東西線 (鉄道事業)  開業 平成27年12月	学識経験者や商工、観光、福祉などの各分野からの委員で構成される「駅名称検討委員会」で討議し、最終的に鉄道事業者(仙台市交通局)が決定	① 駅名により駅の場所がほぼイメージできること。 ② 市民に広く親しまれる名称であること。 ③ 簡単明瞭、かつ発音しやすいこと。 ④ 他鉄道駅の駅名等と混同しないこと。 ⑤ 特別な理由がない限り私的名称は避けること。
名古屋市桜通線 (鉄道事業)  開業 平成23年3月	学識経験者や地元行政区長により構成した「駅名称等検討委員会」で討議し、最終的に鉄道事業者(名古屋市交通局)が決定	[名称選定の考え方] ① 駅の所在地を表示するのにふさわしい名称 ・ 代表的な町名又は字名 ・ 町名又は字名を総括するような名称 ・ 歴史的な意義のある地名で、現在も知られている名称 ・ 地域を表す通称として広く親しまれている名称 ② 利用者に対して案内表示効果が大きい名称 ・ 駅の付近にある公共的又はそれに準ずる施設又は場所の名称 ・ 他の交通機関の駅の名称 [留意事項] ① 発音しやすい ② 間違いやすい名称は避ける ③ 読みやすい
横浜グリーンライン (鉄道事業)  開業 平成20年3月	鉄道事業者(横浜市交通局)が検討し決定	① 既存の鉄道と接続する駅は現在の駅名を用いる。 ② その他の駅は所在地の地域を表す名前とする。
福岡市七隈線 (鉄道事業)  開業 平成19年3月	鉄道事業者作成の駅名案に対する市政モニターアンケートを参考に、鉄道事業者(福岡市交通局)が決定	① 第一の基本として駅舎の所在地及び駅舎に面する公称地名 ② 他の交通機関(電車、バス)の駅名 ③ 駅舎に近在し、広く一般に認知された公共施設名等
大阪市今里筋線 (鉄道事業)  開業 平成18年12月	鉄道事業者作成の駅名案に対する地元意見を参考に、鉄道事業者(大阪市交通局)が決定	以下を総合的に判断し、地元の意見も考慮した駅名とする。 ① 駅の所在地 ② 地上の交差点名 ③ 周辺の有名な公共施設名 ④ 付近の鉄道の駅名、 ⑤ 地上のバスの停留所名 ⑥ 地域住民に親しまれている呼び名等 なお、駅が2つの地域の境界に位置し、地元から要望がある場合は、2つの地名を複合させた名称とし、駅の大部分が所在している地名を先に表記することとする。

停留場整備に係る検討事項及び検討組織

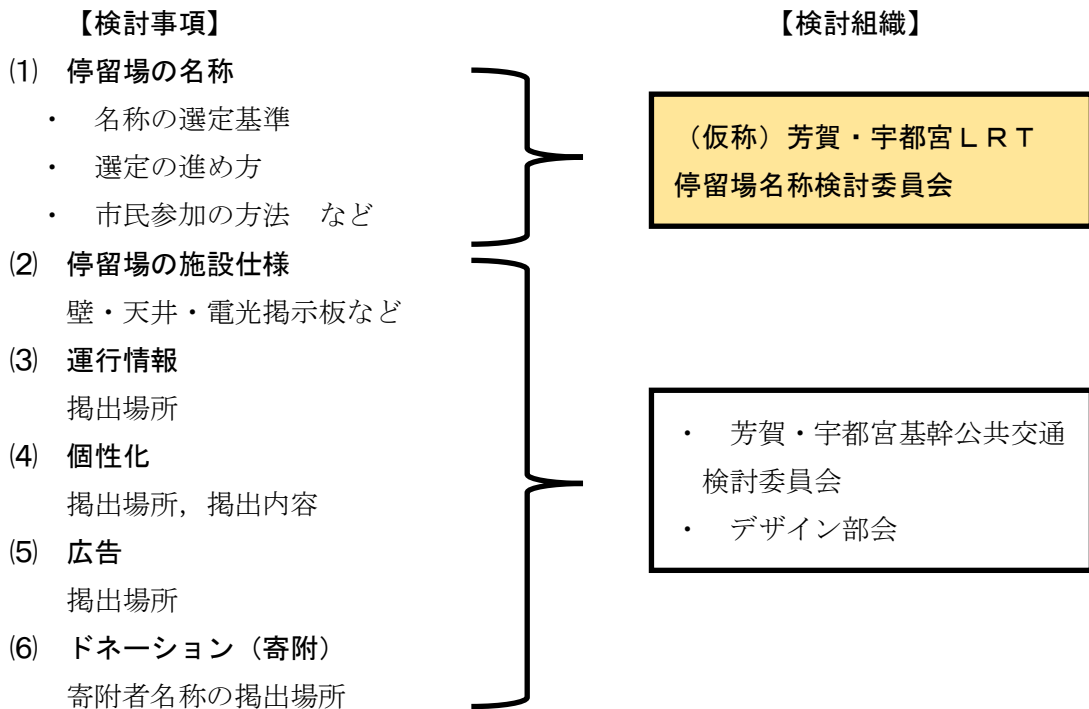


図 1 停留場イメージ



図 2 検討体制イメージ図

